



津山だいすき!

わたしも
ひびくと

近隣の災害にも
対応できる
体制を

アジアや東北の地震で、多くの市民が災害時の対応について気にしていると思います。市内はもちろん、近隣市町村に災害があった場合などにも、市長の命令で自衛隊などが救助に行くことができるよう体制を作ってください。近くには山崎断層がありますし、南海地震もいつ来るか分かりませんからね。(Eメールでのお便り)



32・2042
問い合わせ先 危機管理課

小限に食い止めるためには、被災地に一番近い地域の人々の自助・共助が大切です。このため、市では地域の中で自主防災組織を設立し、普段から災害に備えるようお願いをしています。

災害時の自衛隊の派遣は、市長が知事に対し災害派遣要請要求をし、知事がその内容を検討し、直ちに派遣要請の手続きを取るようになっていきます。また、自衛隊だけでなく緊急消防援助隊が消防庁長官の指示により近県から駆け付けることになっています。

市長の命令で自衛隊を動かすことはできませんが、災害時の対応については毎年見直しを行い、訓練などを通じて平素から連携を取り、万が一の場合も迅速・的確に対応できるように努力していきます。



わたしのおすすめ

自然の大切さを伝えてほしい

加茂町観光協会会長
真木健一さん(加茂町中原)



黒木キャンプ場の脇を流れる倉見川は「全国水の郷百選」に選ばれている旧加茂町の清流で、水辺のキャンプ場として子どもから大人まで、年間約1万人の人に親しまれています。木工教室や農園での収穫体験、川沿いを行く片道約11.5キロのサイクリングコースなど、キャンプだけでなくいろいろな体験をすることができます。

川を流れるきれいな水、アユやヒラメ(ヤマメ)、サワガニ、そして森の昆虫や野鳥などにふれると、この豊かな自然環境を守り、子どもたちに残し、自然の大切さを伝えていかなくてはならないと強く感じます。親子でのキャンプや小・中学生の体験活動などにどんどん利用してほしいと思います。

キャンプの楽しさは「日常の生活から離れ、自然の中に自分の身を置く」ところにあります。夏休みもあと少し。子どもと一緒に夏の思い出づくりにお越しください。

黒木キャンプ場(加茂町黒木)



施設 バンガロー(4~10人用)22棟、テントサイト(4m×4m)88サイト、炊事棟、木工体験棟、シャワー棟など
利用時間 1日=午前9時~午後4時、1泊=午後4時~翌日正午
問い合わせ先 加茂町観光協会☎42-4402、黒木キャンプ場☎42-7615

未来をひびかる 津山人

まちの記憶を記録し、伝えるために

津山町並保存研究会
代表 井上博允さん(平福)



津山にある遺産的建物を実測・調査し、その結果を図面にして残すことで、後世に「まちの記憶」を継承することや、貴重な建築遺産の価値を改めて認識してもらうために活動を続けていく津山町並保存研究会(会員14人)。今回は代表の井上博允さんにお話を伺いました。

活動のきっかけは?

研究会の発足は平成元年6月です。もともと建築士会津山支部の有志で結成され、城東町家などの調査や旧土居銀行(作州民芸館)、津山高校本館などの

調査・実測も行いました。

その後しばらく目立った活動はなかったのですが、田町にある中島病院旧本館が解体されるという話を聞き、再燃。旧本館は大正6年(1917)建築で、正面にドームがあり、屋根や窓枠部分の細やかな装飾など、とても優雅で密なデザインです。近代化遺産としてもすばらしい建築物なので、もったいないという思いが皆にありました。そこで、せめてまちの記憶として図面だけでも記録として残そうと実測することになったのです。その活動が、一部マスコミで紹介されて、現在の保存の動きへとつながっていきました。

近代化遺産って?

近代化遺産とは、幕末から第二次大戦終了時にかけて、日本が近代化を遂げる途上において、近代的手法で建造された建築物や土木構造物で、重要文化財予



▲中島病院旧本館

津山の町並みや建物には特徴があるのですか?

津山は、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の長い歴史の遺産が狭い範囲に点在しています。また、城郭都市の4点セット、城・武家屋敷・町家・寺町がそろっています。

ただ残念なことに、町家の数は老朽化などでどんどん減ってきていますし、武家屋敷も一般に公開されているものはありません。田町の武家屋敷(旧田淵邸)は、津山の洋学者・箕作阮甫が上京する直前に身を寄せていた、永田家の屋敷であった可能性が高いですね。

津山地域に現存する建築遺産は個々には力が無いかもしれませんが、これらをつなぎ合わせることで、こうして魅力的なコンパ

クトさこそ、津山のまちの特徴であり、大きな財産ではないでしょうか。

目指すものは?

建築だけに限ったことではありませんが、もう新しいものを作らなくてもいい時代ではあります。新しいものを作るよりも、今あるものをいかに再生して活用していくかが問われる時代です。

ずっと住んでいると自分たちのまちの良さにはなかなか気付かないものです。わたしたちは専門家だからこそ見える価値や遺産的建物の存在について、皆さんに再認識してもらえないように伝えていかなければならないと考えています。